

生き物 @ 地球

COP10に向けて 1

お花畑 外来種と戦う

初夏の青空の下、黄色いタンポポの群生が広がる伊吹山頂(岐阜・滋賀県境)のお花畑。だが、この光景、「お花畑(伊吹山頂草原植物

種)のセイヨウタンポポだ。母屋を奪われた固有種イブキタ

ンポポは繁殖力が弱く、遠慮

がちに花弁を広げる。今年度、滋賀県は、地元の住民や環境省の協力を得て外来種除去に乗り出した。

6月1日午前10時、観察カイドや保全活動を手がける「伊吹山もりびとの会」(事務局・滋賀県彦根市)の呼びかけで、滋賀、岐阜、愛知な



どから約60人が山頂に集まった。理事の長束憲一さん(67)が「セイヨウタンポポは繁殖力が強い。抜くと決めたら徹底的に、根の先まで」と呼びかけ、ツルハシやスコップを手にした参加者たちが掘り起こしに取りかかった。写真。約4時間の作業で、直径1

センチあまりの穴が埋まるほどのタンポポを刈り取り、根を切り取って「埋葬」した。全長72センチまで伸びた根もあった。

滋賀県植物研究会長の村瀬忠義さん(73)は「外来種を完全に取り除くのは大変なこと。固有種を守り増やすためには、お花畑を人間が踏み荒らさないことだ」。

(写真・加藤丈朗)
(文・富岡史穂)

◇ 2010年10月、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催される。開催国・日本の生物多様性の「いま」を切り取る。(次回から社会面に掲載します)